

## 3-2-1 ルールに沿ったバックアップ戦略で重要なデータを保護

データがビジネスのあらゆる面で中核を担う今日、データ保護は最優先の課題となっています。データの漏えい、削除、破損のリスクは、ランサムウェアや自然災害、人的ミスといったさまざまな要因によって生じます。

バックアップはあらゆる事態における最後の砦であり、それゆえにバックアップデータを狙った攻撃が増加しています。このため、バックアップデータに関して、堅牢なデータおよびビジネスレジリエンス戦略の導入が欠かせません。3-2-1 ルールに沿ったバックアップ戦略は、データインシデントの発生時に回復力を維持するための実績ある方法です。

### 3-2-1 ルールに沿ったバックアップ戦略の定義

3-2-1 ルールに沿ったバックアップ戦略は、分散化、冗長化、オフサイトストレージの使用をバランスよく行うことで、重要なデータの可用性と回復力を確保する確固たる基盤を構築します。この名称は、バックアップアプローチの「対象」、「場所」、「方法」を表します。

#### 対象: 3 つのコピー

データの 3 つのコピー、具体的には本番データに加え 2 つのバックアップを保持します。この冗長性により、1 つのコピーがアクセス不能になったり破損したりしても、2 つがリストア用に残ります。3 つのコピーを保持することで、データを永久に損失するリスクを大幅に低減できます。

#### 場所: 2 つの異なるメディア

前述のデータコピーを 2 つの異なる形式、つまりメディアに保存します。分散化により、特定のタイプの障害に対する保護を強化できます。たとえば、一方のコピーを物理的な外付けハードドライブに、他方をクラウドに保存しておけば、ハードウェアの誤動作からもオンラインでのセキュリティ侵害からも保護可能です。このアプローチを取ることで、すべてのコピーを同時に損失する可能性を最小限に抑えることができます。

#### 方法: 改ざん対策あるいはエアギャップを施した 1 つのコピー

ランサムウェアに対するサイバーレジリエンスと保護を強化するため、改ざん対策かエアギャップ、あるいはその両方を 1 つのコピーに施して重要なデータの整合性と可用性を確保します。

コンプライアンスおよびデータ保持を求める多くの規制は、指定期間にわたり改ざん不可能な状態でデータを保管するよう規定しています。**改ざん不可能なバックアップ**は、バックアップコピーの真正性と信頼性が確保されるため、リカバリやコンプライアンス要件に対応する際に信頼できる情報源として利用できます。

最後にお勧めするのは、1 つのデータコピーをオフサイトに保持することです。つまり、プライマリデータを作成して保持する場所とは地理的に離れた場所にデータコピーを保管します。こうすることで、お客様の拠点を物理的に損傷する可能性のある、台風、火災、洪水などの大災害をはじめとする物理的な危険からデータを保護できます。また、コピーをオフサイトに保持することで、有事の際や盗難の発生時にもデータを復旧して事業を継続することができます。

### 3-2-1 ルールに沿ったバックアップ戦略



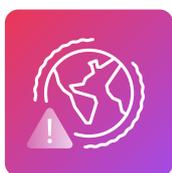
## 3-2-1 ルールに沿ったバックアップ戦略を導入すべき主な理由



### サイバーレジリエンス

ブロックチェーン分析を専門とする [Chainalysis 社](#)は、「ランサムウェアは、暗号通貨をベースにした犯罪の中で唯一、2023 年も拡大を続ける見込みである」と推測しています。また、同社の年央調査報告では、攻撃者が奪取した金額が 2022 年の同日までの期間と比べ、1 億 7,580 万ドル増加したことも明らかになりました。

本番データとバックアップデータの両方を窃取したサイバー犯罪者はこのデータを人質にして、企業の身動きを封じることが出来ます。サイバー犯罪者はこの手口で高額な支払いを要求したり、ビジネスを修復不可能なまでに破壊したりします。しかし、3-2-1 ルールに沿ったバックアップ戦略を展開すれば、データを暗号化し、オフサイトに隔離して、改ざんも消去も不可能なストレージデバイス上で保管するリカバリ環境からのリストアが可能になるため、迅速なリカバリが実現します。



### 災害からの回復力

ベリタスの [2022 年のレポート](#)では、27% の調査対象者が過去 2 年間に自然災害によるダウンタイムを経験したと回答しました。3-2-1 ルールに沿ったバックアップ戦略を導入すると、事業の中断および深刻なデータ損失の可能性が低減します。自然災害の危険性が低い地域にオフサイトのデータ保管拠点を置くことで、プライマリサイトでの出来事が原因で本番データを損失した場合にも、迅速なリカバリが可能になります。どのような自然災害に見舞われても、データの安全性と回復力が維持されます。



### 事業継続

「ダウンタイム」は、耳の痛くなる言葉です。コミュニケーション、オペレーション、サプライチェーンへのリスクは年々増加する一方で、サービスとフルフィルメントの迅速化に対する顧客の期待は高まっています。このため、堅牢なビジネスレジリエンス戦略の策定が欠かせません。3-2-1 ルールに沿ったバックアップ戦略では、明確な道筋に沿ってオペレーションをシームレスにすばやく回復し、生産性を維持することができます。



### 市場での評判

攻撃によりデータの損失や漏えいが生じた場合、その影響は事業の中断にとどまりません。評判が著しく低下し、顧客の信頼を永久に失うケースもあります。[Thales 社による 2022 年消費者デジタル信頼指数](#)によれば、データ侵害の被害者の 82% が日常への悪影響を実感しています。また、顧客の信頼を維持するには、混乱の発生後すぐにカスタマーエクスペリエンスを回復することが欠かせません。この他にも、リスク低減計画や修復計画が必要です。顧客データの迅速な復旧は、データの安全性と信頼性に対するコミットメントを実証する上で不可欠であり、市場での自社の位置付けの強化にもつながります。

### 3-2-1 ルールに沿ったすぐに導入できるバックアップソリューション

ベリタスは、NetBackup™ 搭載のアプライアンス や Veritas Alta™ Recovery Vault をはじめ、すぐに利用できる包括的なバックアップ製品を提供しています。ベリタスのソリューションを導入すれば、サイバー攻撃、自然災害、人的ミスのおいずれであっても、有事の際に迅速な保護、検出、リカバリを実現できます。

ベリタスのクラウドベースの製品は、データの冗長性と拡張性を確保し、リモートアクセスを可能にします。また、重要なデータの保護を強化し、柔軟性を高めます。お客様は 3-2-1 ルールに沿ったバックアップに関して最善のアプローチをシンプルに導入できるため、生産性の向上、運用コストの低減、卓越したカスタマーエクスペリエンスの提供に専念することができます。

[ベリタスのディザスタリカバリソリューションの詳細をご確認ください。](#) >

#### ベリタスについて

Veritas Technologies は、マルチクラウドデータ管理のリーダーです。データの保護、リカバリ能力、コンプライアンスを確保するために、Fortune Global 100 の 95% を含む、先進企業 80,000 社以上が、ベリタスのソリューションを導入しています。ベリタスは、ランサムウェアのようなサイバー攻撃がもたらす脅威に対してお客様が必要とする回復力を提供し、大規模な環境でも信頼できると評価をいただいております。単一の統合されたアプローチを通じ、800 以上のデータソース、100 以上のオペレーティングシステム、1,400 以上のストレージターゲット、60 以上のクラウドをサポートしており、ベリタスの実行能力に匹敵するベンダーは他にありません。Cloud Scale Technology により、ベリタスは運用にかかる煩雑さや業務量を削減しつつ優れた価値を提供する、自律型データ管理の戦略を提供しています。ベリタステクノロジーズ合同会社は、Veritas Technologies の日本法人です。

## VERITAS™

〒107-0052 東京都港区  
赤坂 1-11-44  
赤坂インターシティ 4 階  
[veritas.com/ja/jp](https://veritas.com/ja/jp)

各国オフィスとお問い合わせ先については、  
弊社の Web サイトを参照してください。  
[veritas.com/ja/jp/company/contact](https://veritas.com/ja/jp/company/contact)